

龍馬  
いとう



海援隊旗(二曳きの旗)

<http://www.ryoma-kinenkan.jp>

## 点滴 TENTEKI SENSEKI 穿石

### ここは館長の部屋

# 〇〇元年に向かって

平成最後の新春を迎えた。5月の改元を巡って様々な推測が出てくるだろうが、内外の不透明な状況が一掃され、一人ひとりが明日への希望を胸に、生き生きと暮らしていける時代に相応しい元号となることを期待している。

龍馬に関する元号と言えば、彼は天保年間にこの世に生を受け、弘化、嘉永、安政、万延、文久、元治そして慶応と8つの時代を生き、9つ目の明治を迎えることなくその使命を終えて、天へと召し帰された。

明治・大正生まれの方が少なくなり、大多数の人々がやっと3つ目を迎えようということからすれば、龍馬や彼と同じ時代を生きた人達にとっては、何とも目まぐるしい改元ラッシュだったことだろう。

これも、一世一元が制度化される明治以前には、改元を行う機会が、君主の代替わりであった時(代始改元)以外に、吉事に際した時(祥瑞改元)、凶事を断ち切る時(災異改元)など、色々とあったことによる。

幕末の激動が始まったとされるペリー来航は嘉永6年であるが、その翌年には安政元年を迎えることとなる。この年の11月の初めには、安政の大地震(正確には「嘉永の」であろうか)と言われる一連の地震のうちの東海地震が起き、また、その32時間後には南海地震が発生している。

そして、この凶事続きの流れを変える狙いもあって元号を嘉永から安政へと変えたものの、次の年にも、飛騨地震や江戸地震、そして東海地震の最大余震が遠州灘で起きたこともあって土佐の民衆の間では、「安政にしても地震は止まぬなり、こんなことなら嘉永でも(変えいでも)よい」と囁し立てたと言われている。大喜利のお題が「改元」なら座布団一枚といったところであろうか。

さて、昨年は、リニューアル以降、展示環境を巡って展示計画の一部変更を余儀なくされるといった出来事もあったが、県民の皆様や全国の龍馬ファンの皆様からの強力な後押しを得て、入館者数を順調に伸ばすことができた。そうした中で、11月には年内の達成目標とされた15万人を上回る方々の入館を記録するなど、開幕から二年目となった幕末維新博のメイン会場としての役割を何とか果たせたようである。紙面を借りて、博覧会関係者の皆様にも改めて感謝申し上げます。記念館では今年4月からは、5年間にわたる次の指定管理期間が

スタートし、年間16万人以上という目標に向かって取り組んでいくこととなる。そこで、本号表紙の四文字熟語は、「点滴穿石」とした。小さな水滴でも、年月を経て石にも穴を開けることができるの意である。

亥年に因んで「猪突猛進」と言いたいところだが、たとえ猛進でなくても、記念館の運営に携わる職員一人ひとりが、自らの目標に向かって小さな努力を着実に積み重ねることによって、大きな成果を収めていければとの願いを込めたものである。

館長 高松清之



「ジョン・マンと言われた男」中濱万次郎展  
好評開催中  
アメリカの恩人へ送った  
万次郎直筆の手紙など日本初公開



～2月24日(日)まで  
企画展示室・  
ジョン万次郎展示室／新館2階

高知県立坂本龍馬記念館では、グランドオープン(昨年4月21日)に伴い、新館に「ジョン万次郎展示室」を開設いたしました。

ジョン万次郎(1827～1898)は坂本龍馬の海援隊構想にも影響を与えた人として知られています。同室は常設展示室と企画展示室の間にあり、小規模ではありますが、万次郎研究の拠点として今後発展させていきたいと思っています。

そこで、開室を記念した企画展、『ジョン・マンと呼ばれた男』中濱万次郎展を12月29日から開催しております(2月24日まで)。

「万次郎」にはいくつかの名前があります。幡多郡中ノ浜浦(現・高知県土佐清水市中浜)に漁民の次男として生まれ「万次郎」と名づけられた少年は、14歳のとき出稼の漁で仲間4人と遭難。無人島(鳥島)に漂着し約5か月後にアメリカの捕鯨船に救出されました。

その後、万次郎は最初の寄港地ハワイで仲間と別れ、救助された捕鯨船ジョン・ハウランド号の乗組員となり、「ジョン・マン」と呼ばれ親しまれまし

た。その名前は、同船のホイットフィールド船長がつけたと言われ、万次郎自身も「John Munn」(ジョン・マン)と署名しています。ジョン・マンは二度の捕鯨船航海をはじめとする船員時代と合衆国本土での生活を合わせた10年間のアメリカ時代に呼ばれ使われた名前です。

自ら意を決して24歳の青年は鎖国時代の日本に帰り、漂流民・万次郎として取り調べを受けます。やがて万次郎は土佐藩から幕府直参の武士に取り立て、名字帯刀を許され「中濱万次郎」となりました。つまり本名は中濱万次郎です。

さらに1937(昭和12)年、作家・井伏鱒二が小説『ジョン万次郎漂流記』で第6回直木賞を受賞し、「ジョン万次郎」という名前が広く知られるようになりました。そのため近年では本名よりもジョン万次郎の名前で人々に親しまれており、当館展示室もこの名前で紹介しています。

万次郎の人生は、名前の変遷とともに大きく3つの時代があります。①土佐最西端・足摺岬の小さな漁村に生まれ育った万次郎時代②船員として成長した10年間のアメリカ、ジョン・マン時代③帰国後、開国から明治維新を体験して71歳で没するまでの中濱万次郎時代。

今回の企画展では「ジョンマンと呼ばれた」時代にスポットを当てました。特別展示として万次郎直筆のホイットフィールド船長、及び咸臨丸アドバイザーであったブルック大尉宛の手紙(いずれも英文)を日本で初めて公開しています。特にブルック大尉宛の手紙はブルック家門外不出だったものです。

同様に万次郎たちを救出したときの記載がある『ジョン・ハウランド号航海日誌』、ハワイでの万次郎の恩人・デーモン牧師からホイットフィールド船長に宛てた手紙ほか貴重な私蔵資料をアメリカから持ってきて、初公開しています。龍馬にも影響を与えたであろう万次郎の人生を資料とともにじっくり味わっていただきたいと思えます。

前田 由紀枝

■主な展示資料

万次郎直筆書簡5点(勝海舟代筆含む)、『ジョン・ハウランド号航海日誌』『ライマンホームズ航海日誌』、中濱万次郎関係図絵『文物見聞録』(池道之助画)、「彬齋叢語」「英米対話捷徑」「ペリー遠征記」「万延元年中歳渡米之記」(勝海舟)、「真覚寺日記」ほか29件 70点

■特別講演会

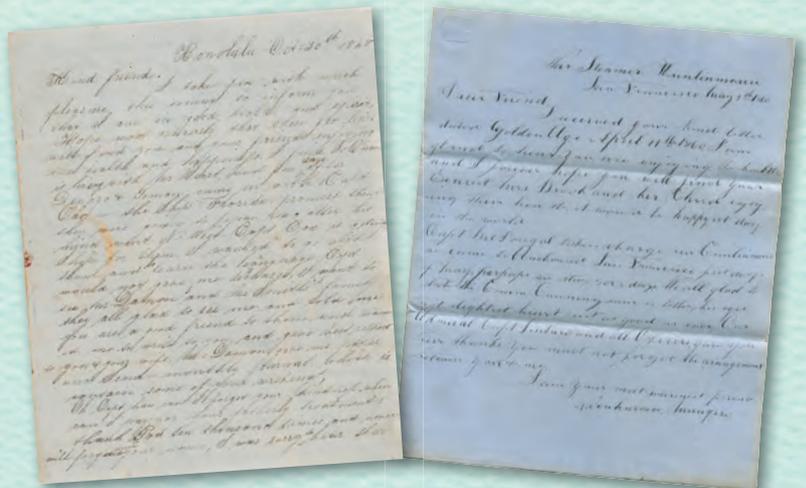
2019年1月26日(土) 13時～16時

- ◇第1部 特別講演「名を求めなかった男・ジョンマン」  
講師 山本 一力(直木賞作家)
- ◇第2部 座談会「アメリカの風～万次郎の見た世界」

■講演会

- ◇「幕末と帆船～万次郎が歩んだ道」  
講師 草柳 俊二(高知工科大学名誉教授)
- ♪ミニライブ「ジョン万が見た海へ」  
2019年2月9日(土) 13時30分～15時30分  
\*両日とも、新館1Fホールで。

定員100人  
無料  
受付・先着順



ジョン・マンから  
ホイットフィールド船長宛書簡  
(1848年10月30日付)

中濱万次郎から  
ブルック大尉宛書簡  
(1860年5月7日付)

飛騰の紙面にスマホをかざして動画を見よう!

視聴方法は簡単!

- ① 右のQRコードから無料アプリ「COCOAR2」をダウンロード
- ② アプリを起動し、マークのついた写真にスマホをかざす

※端末の環境により、イメージが認識されるまでに時間がかかる場合や、正常に動作しない場合があります。  
※本コンテンツは2018年9月30日まで閲覧可能です。



# 「大義と忠誠の戊辰戦争 — 会津・土佐・三春の幕末明治 —」展を終えて

本年度二つめの企画展「大義と忠誠の戊辰戦争—会津・土佐・三春の幕末明治—」が終了した。戊辰戦争勃発から150年の節目で、できたばかりの新しい展示室で、他館の資料を数多く、遠くは福島から借用し、会期も前後期にわたる規模の大きな展示会、何もかも初めての経験であった。

会期は前期が7月17日（火）から8月16日（木）、後期が8月28日（火）から9月27日（木）の計62日間で、約4万4千人の来場者があった。展示資料は前後期合わせ57点、パネル類21点で、前後期の間で一部資料の入れ替えを行った。会津からは、会津松平家の政治的態度を規定したともいえる「御家訓」（土津神社蔵、福島県立博物館寄託）、会津の降伏式で用いられた毛氈である「泣血氈」（会津若松市蔵）、土佐のものである、戊辰戦争に従軍した片岡健吉、谷作七、野崎正朝らが用いた

品々、三春からは河野広中所用の陣羽織や断金隊旗（三春町歴史民俗資料館蔵）など、多くの貴重な資料を展示することができた。戊辰戦争展ではあったが、当館では幕末から民権期までの長期スパンで、戊辰戦争を戦った会津と土佐、ともに民権運動を闘った土佐と三春の関係を捉えることを目指し、当館ならではの特色を打ち出せたと考える。また、展示資料と解説を掲載した小冊子も制作しており、見逃された方にはぜひご覧いただきたい（当館ショップにて500円で販売中）。

150年が経った今でも、戊辰戦争に対する考え方は西日本と東日本で異なる。とりわけ会津を始めとする東北諸藩では、薩摩や長州など新政府側への風当たりも強いと聞いており、展示準備を始めた段階では会津へ足を踏み入れることにも不安があった。結果として不安は全て杞憂に終わったが、一方で、戊辰のわだかまりも確かに残っている。こうした東西での明らかな認識の相違、

そして、今後も歴史的課題として、戊辰のわだかまり〴〵に向き合い続ける必要があることを、今回の経験を通じて痛感した。学芸員としては、大変得るものの大きい展示会であった。

最後になったが、今回資料貸出や画像使用を快くお許しください、また展示室の環境問題でご心配・ご迷惑をおかけしながらも、事情をご理解くださった関係各位に、改めてこの場を借りて深くお礼申し上げます。

亀尾美香



「戊辰150周年」のロゴが使われている会津若松市のパンフレット。今回全国的に多く使われているのは「明治150年」という別のロゴである。



展示風景（前期）

# 創作能〈龍馬〉 再演!

「龍馬がゆく」をはじめ、龍馬を主人公にした小説はたくさんあります。

〈おーい、龍馬〉のように龍馬が主人公の漫画もあります。映画やテレビドラマ、舞台劇、ミュージカルも数多くあります。さらに、龍馬はゲームにもなっています! (〈維新の嵐 疾風龍馬伝〉) このように、龍馬は様々な芸能分野で主人公として活躍しています(登場人物のひとりとなると、さらに作品は増える!?)。そのなかで、この度、リニューアルオープンを記念し、龍馬を主人公にした、唯一の能楽「創作能〈龍馬〉」を11月10日に高知県立美術館能楽堂で再演しました。

「しばし止まりて舞を見せ 一期の思い出となし給へ」と舞を所望します。龍馬は舞を披露し、かぶつていた笠を空に放り歴史の中に飛翔していきます。

龍馬脱藩というよく知られた出来事をテーマにし、また台詞も現代語に近いことから、この能楽作品は初めて能楽をご覧になる方にも、わかりやすかったのではないかと思います。

「創作能〈龍馬〉」を作り、主人公の龍馬を演じたのは、河田小龍の曾孫であり幕末史の研究もされている宇高通成師です。平成15年秋、高知県立美術館が開館10周年記念に「河田小龍 幕末土佐のハイクラ画人」を開催した際、関連企画として初演され、今回が15年ぶりの再演となりました。

(文中の「」内のセリフは、宇高通成師作「創作能〈龍馬〉」より引用しました。)  
河村章代



創作能「龍馬」

## 「龍馬まつりin記念館」

盛況でした!

「月の名所」として知られる桂浜は、高知県を代表する観光地、景勝地のひとつです。毎年11月には、この桂浜を舞台に楽しいイベントが繰り広げられる「龍馬まつり」が行われます。今年、11月18日に第45回「龍馬まつりin桂浜」が開催されました。この日は、リニューアルオープン後、初めてとなる記念館での「龍馬まつり」を開催しました。新たにできた新館のホールや、本館海のみえる・ぎやらりい」などを会場に色々なイベントをお楽しみいただきました。

### ●幕末朗読劇「龍馬疾風録」

「東京幕末GARAGE」による、オリジナル朗読劇「龍馬疾風録」を新館ホールで上演していただきました。「朗読劇」とは通常のお芝居とは異なり、役者が台本を持ち、演じていくお芝居です。大掛かりな道具もなく、出演者も数名と、シンプルな舞台ですが、その想像力をかき立てられます。今回の作品では、龍馬が脱藩し、新しい日本のために奔走する日々を2人の役者が演じました。

### ●紙芝居「りょうまはともだち」

朗読劇と同じく「東京幕末GARAGE」のメンバーによる、当館オリジナル紙芝居「りょうまはともだち」を本館・近江屋で上演しました。昔の紙芝居のように、最後まで聞いてくれた方には、豪華景品があたるくじ引きもお楽しみいただきました。

### ●ミニコンサート

#### 「海のみえるコンサート」

太平洋をのぞむ本館「海のみえる・ぎやらりい」では、高知県内で活躍する音楽トリオ「ママ・レヴィーユ」によるミニコンサートを開催しました。窓の向こうには、大海原、ときおりトンビが空を舞う…という絶好のロケーションで、チェロ、フルート、クラリネットによる、龍馬や海に関連する曲を演奏していただきました。

### ●映画上映会

龍馬を主人公にした映画は、戦前からあります(それだけ、龍馬は人気があったということですね)。今回は、月形龍之介主演の〈海援隊快拳〉(無声)と坂東妻三郎〈坂本龍馬〉(活弁士音声入り)の2本を上映しました。今の映画に見慣れた目には、白黒で台詞が画面に映る戦前の映画はとて新鮮でした。

(〈海援隊快拳〉は国立映画アーカイブより上映素材を提供していただきました。)

河村章代



幕末朗読劇「龍馬疾風録」

新連載!

# 龍馬の手紙

01

右申所の姦吏を一事に軍いたし打殺、  
日本を今一度せんたくいたし申候事  
ニいたすべくとの神願にて候

(文久三年六月二十九日乙女宛)

余計なものが付いているとの声が聞こ  
えてきそうだが、「せんたくの手紙」と  
して有名な手紙の一節である。大袈裟に  
言えば、私にとってこの一節（の特に前  
半）が、龍馬との向き合い方を決定づけ  
た。

おそらく龍馬の手紙のなかでもっとも  
有名なフレーズは、実は「右申所の姦吏  
を一事に軍いたし打殺」から続いている。  
「姦吏」は「よこしまな心をもった役人」  
の意味で、役人を批判的に取り上げる際  
によく使われる。文脈上、この「姦吏」が  
幕府の役人を指していることは間違いな  
い。これと戦って打ち殺すというのは  
少々穏やかでないが、ともかくこれが「日  
本を今一度せんたく」するために龍馬が  
考えた具体的な方策なのである。ただし、  
ここでの目的は「平和」「穏健」といっ  
た龍馬のイメージを嬉々として覆すこと  
ではない。私の思いは、そこからもう一  
歩踏み込んだところにある。

昔も今も、政治の「腐敗」を嘆く声  
はある。徳川將軍を封建制の絶対君主  
とした江戸時代であっても、それは同  
じである。問題は批判の矛先だろう。  
数ある政治批判のなかで、將軍や藩主、  
あるいは天皇などの治者が直接その対  
象となることは、幕末に至ってなおよ  
ほとんど例がない。あくまで、その取り  
巻き（側近、役人）が悪いという論調  
になるのが江戸時代の常である。

龍馬の手紙中の「姦吏」批判は、こ  
のような一般論の範疇にあるとは考え  
られないだろうか。もちろん「せんたく」  
云々の表現の巧みさには恐れ入る  
のだが、やや乱暴な言い方をすれば、  
内容的には実に平凡な政治批判でしか  
ない。この手紙に見られるのは、いたっ  
て普通の感覚を持った尊王攘夷の志士  
坂本龍馬であるように思う。私がこの  
ような解釈に至った時、龍馬もこの時  
代を「普通」に生きた人間だったのか  
と、ある種の安堵感に包まれたことを  
覚えている。それまで若干身構えて向  
き合っていた龍馬という人物像が、少  
し近くに感じられた。

高山嘉明

「龍馬の手紙」を連載します。今後さ  
まざまな方に、龍馬の手紙のうち特  
に思い入れの強い一通または一節に  
ついて語っていただく予定です。

新連載!

## 私の おすすめ

No.1

このコーナーでは、当館職員  
が館内外のおすすめの場所や  
物を紹介していきます。  
その第一回目をお届けします。

## 「龍馬の目線」

今回私がおすすめするのは、坂本  
龍馬像と同じ目線に立つことのでき  
るスポットです。

こちらは、毎年、春と秋に桂浜公  
園内で開催される「龍馬に大接近」  
というイベント時にのみ出現するス  
ポットで、公園内に立つ坂本龍馬像  
と同じ高さに建てられた櫓から、日  
頃見られない龍馬の顔を至近距離で  
見ることができ、龍馬の目線で太平  
洋を眺めることができます。春と秋、  
それぞれ2ヶ月程度の期間限定イベ  
ントですので、プレミア感は間違い  
ありません。高い所が苦手な方には  
少々緊張する階段や高さではありま  
すが、勇気を出して上った先から眺  
める景色は心を清々しくさせてくれ  
ます。春、秋に桂浜を訪れた際には、  
ぜひ、お立ち寄りいただき、素敵



思い出の一つにさせていただければと  
思います。

ちなみに、こちらのスポットは、  
龍馬パスポートスタンプ押印対象と  
なっておりますので、ぜひ龍馬パス  
ポートをお持ちになって、お立ち寄  
りください。

西本有里



# 拜啓 龍馬殿

158通

平成30年9月21日〜12月20日



この度、ミイハークと思われるでしょうが、ゲームの人物として坂本さんが登場しているのを見、あなた様の思想、人柄が知りたいたいと、本州・兵庫より参りました。人好きのする性格でいらっしやうたのだらうとお見受けするお手紙に、維新に関する資料といながら、心がほっこりと温まる思いでした。姉にしか、もしくは親しい人しか見せないように、という文字を全て読んでから見てしまいましたので、最初に書かれた方が良かったかもしれませんが（でしたら展示されることもなかったかもしれませんが）。大変高く生きてゆきたいものだと思います。大変貴重な資料を拝見できたこと、心より感謝申し上げます。

(9月23日 兵庫 27歳 女性)



勤続30年の特別休暇に、「高知」という地を選んだのは坂本龍馬の生き方、考え方にただただ共感していたからです。なぜこんなにも人々の心を動かした、今も輝き続けるのか、そんなところにも魅力を感じます。言葉に言い表せないけれどもあなたへの遺してくれた数々の行動に感謝しながら生活していきます！

(9月25日 埼玉 M・N 53歳 女性)



茨城から高知へ、本年長きにわたる仕事を終い、龍馬さんとうちがい無事完結できました。今からの事を考え、高知で人生の完了を考えています。女房の両親のお墓があります。最後の決断の時です。

(9月26日 71歳 男性)



小学校で日本の歴史を学んでから憧れていた龍馬が生まれた高知を初めて訪れることができ、大変嬉しく思います。記念館は多くの資料とユーモアのある展示で印象深いものでした。今夜は龍馬への思いをはせながら高知の美味しいお酒と料理を楽しみたいと思います。

(9月26日 千葉 T・T 38歳 男性)



初めて会いに来ました。本当に嬉しく、そして偉大な龍馬殿に感激と信頼と親近感を覚えました。ありがとうございます。また会いに来ますので、宜しくお願いします。

(9月27日 新潟 N・K 70歳 男性)



大学生の頃に「龍馬がゆく」を読んで以来のファンです。医学部を卒業して十年、医師として今後の生き方に迷って、高知に旅行にきました。私も自分でじっくり考えて生きていきたい。また来ると思っています。

(10月2日 青森 T・K 34歳 男性)



あなたが亡くなった年齢33才になりました。33才になったら、あなたに会いたいと思ひ高知へやって来ました。あなたが作った近代日本で私たちは生きています。しかしあなたは今の日本を見ると悲しむのではないのでしょうか。「こんな国じゃなかった」と嘆くのではないのでしょうか。あなたの時代よりはるかに日本は豊かになりました。しかし政治は混沌とし、世の中も暗いことが多いです。そんな時にあなたの生き様を思い出すと、「よし！がんばろう！」と気合いが入ります。「あなたのように生きていこう」とよく思うと、ありがとうございます。

(10月5日 熊本 R・K 33歳 男性)



今から42年前、学生時代に熱心に司馬先生の「龍馬がゆく」を読みました。それまでは名前程度しか存じてなかったけど、龍馬の国家という意識、小さくことにこそせせせす、大望を持ってと励まされたものでした。本日来館して龍馬のユーモアあふれる手紙、乙女への手紙を拝見して、改めて龍馬の人間としての大きさに出合ったように思います。良い展示でした。

(10月7日 東京 M・K 62歳 男性)



小旅行のつもりで国民宿舎に泊まり、新しくなった記念館に来ました。海と坂本龍馬と高知大好きです。連休明けの仕事頑張ることができそうです。

(10月7日 大阪 Y・N 25歳)



昨日は橋原町で行われた龍馬脱藩マラソン大会に参加してきました。あの険しい山道を龍馬さんも通って行ったのかと思うと感概深いです。この道を通って脱藩したのかなと思ひながら走っていたところを通って自分の今までの殻を破っていったのだろうかと思ひました。私も志高く生きていきたいものです。

(10月8日 岐阜 H・I 49歳 女性)



あなたのすごさはテレビのドラマやドキュメンタリー番組で知りましたが、本当はどんな方だったのでしょうか。ただ純粋な思いに正直に生き抜いた人だと思ったり、何か選ばれた人と思えたり。なかなか強い思いを持って生きることはなくなってしまうましたが、私も私の目の前にいる人やあることにまっすぐに向き合い、自分なりに一生懸命生きていこうと思ひます。高知はほんとうに素敵なお所ですね。

(10月16日 58歳 女性)



やっと記念館を訪れることができ、なんだか胸がいっぱいになっております。連れて来てくれた夫にも感謝です。私は以前、龍馬を活かす会、会員で、夫と結婚し長崎に住んでいます。亀山社中の近くで、友人のいなかた私は、当時社中の管理をしていた本村氏を子ども連れよく訪ねました。現在は、社中は改装され（私としては少し残念なんです）観光客も増えました。龍馬のブーツの像も近くにあります。私、献金したので最後に名前も刻まれています！この風景とてもステキです。水平線もキレイ。長崎とまた違ったものを感じられます。龍馬が訪れた地だいたいめぐりました。高知やと来れて本当にうれいいます。明後日からの仕事も頑張れます。

(10月20日 長崎 K・Y 57歳 女性)



龍馬が見ていた景色や思いを感じることができました。

(10月21日 佐賀 K・O 49歳 男性)



坂本龍馬殿はまっことカッコイイ漢ぞよ。□マンがあるぜよ。世界に目を向けて日本を変えていくなんてなかなかできんぜよ。わたしもいまの職場をこれからせたくししよう。おつぼねどもをだまらずぜよ。じょういぜよ。これから改革していくので龍馬殿見ていってくださいよ。

(10月22日 26歳 男性)

## 学芸員の視点

### 「研究テーマ」と向き合う

高山 嘉明

昨年5月、「第10回高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会研究発表会」がおこなわれ、筆者も研究発表者の一人として参加した。内容の詳細は別稿に譲るが、筆者にとって土佐藩を軸とした研究テーマと向き合うはじめの機会となった。折角の機会なので、いわゆる「一からのスタート」を振り返りながら、研究テーマが心に浮かび、それが一応の形になるまでの間、どのような思索を巡らせているのか、一端を紹介したい。

### 第一歩の踏み出し方

なぜその研究テーマを設定したのか、という問いに答えるのは至難の業である。それまでの経緯をふまえての、なんとなくの興味・関心と言うほかない。よって話としてはその次の段階から始める。

はじめに何に取りかかるのか、これは人それぞれで方法が異なるだろう。まず関連の研究書にあたること（先行研究の整理と呼ばれる作業）を重視する方も少なくないだろうが、筆者の場合、今回それほどこれを重視しなかった。その代わり、とにかく避けて通れないのが、可能な限り多くの史料を読み込むことである。史料とは当時の人々が記録した文字情報のこと、歴史学研究の肝となる「素材」である。書簡や報告書、日記等に書かれた内容がこれに相当する。生の史料にあたることを第一歩とすることで一定のオリジナリティが見込めると、言い訳がましく考えている。

### 史料との出会い

漠然とした「やってみよう」ということを前にして、それが果たして研究テーマとして成立するのか、はじめから確信を持てるケースは稀であろう。その状況

 龍馬様。私は龍馬様より100年後に生まれました。貴男の力をもらって100才まで元気で生きたいと思えます。

(10月23日 高知 M・N 83歳 女性)

 あなたの生涯を細かく知る事ができてよかったです。聖人のように扱われることもあれば、無鉄砲な人だと思われることもあり、おもしろい人だったと思います。現代の感覚でも面白い手紙や文字など遊べる要素がまんざらで、次は企画展やってほしいです。

(10月24日 福島 J・K 30歳 女性)

 龍馬さんが生きていたらまたすごい日本になっていたでしょう。どんな思いであの日亡くなったのかももっと知りたいことがたくさんあったかと思うと、一度お会いして聞いてみたいです。日本中が龍馬さんのことを知り、有名人となり、誇りに思っている方がたくさんいること、日本のヒーローだと言えます。あつぱれ。追伸「今の日本を洗濯したい」

(10月28日 愛媛 R・K 41歳 女性)

 私は龍馬殿と深い関りのあった越前福井藩からやとして参りました。今年は幕末明治150年記念として福井県内各所に於いて催し物も行われて盛り上がりつつある次第です。私も各所へ赴き幕末の偉人に想いを馳せております。越前には四侯の一人松平春嶽侯をはじめ、橋本左内、由利公正、中根雪江、横井小楠と多くの英傑がおりますし、彼らの熱い想いをどことなく土佐の英傑方と似ているなと感じております。福井も高知も小さな県ではありますが、近代国家の礎をつくった雄藩であること、そしてそこで生まれ育ったことを誇りに思っていますし、高知の方も恐らく同じ気持ちではないかと思えます。私の自宅は北国街道今庄宿手前の湯尾村で、明治に至るまで茶屋を営んでおりました。京から福井を何度となく訪れている龍馬殿も我が家の茶屋に立ち寄りたてたのではないかと？と思うと胸が熱くなります。本日この地に立てて本当にうれしく思います。先日、湯尾の峠で寛永通宝の古銭を拾いました。もしかして走り続けていて落とした龍馬殿のもの？

(10月30日 福井 M・Y 45歳 男性)

 高校3年生だった昭和62年以来、31年振りに土佐に来ました。桂浜で海を見ながら「自分も世の中で人に、ありがと」と言われる人間になりたいと感じた学生時代。それから30年が過ぎ、少し公私に疲れを覚え、そんな自分と向き合う時間が増加する日々。しかし今年も新しい500円で各地でイベント。「アラライアス」というキーワードに携わる仕事もしており、家族の了解を得て久々に桂浜へ一人旅しました。昔感じた初心を思い起こすこともでき、人の役に立つことを再び目指して、心と身体をきたえ直してこのうと決めました。次の機会は息子と一緒に、元気を蓄えに来ます。

(11月3日 東京 S・N 51歳 男性)

 3年半ぶりにお手紙を出します。あのときは龍馬さんのような大志を抱く子どもを育てられるような先生になりたいと書いていたように思います。あれから様々なことがあり、私は教師ではない、別の職業に就くことになりました。しかし高知県内で卒業後も暮らす事になりました。まだまだあなたの志のもとに生活することができそうです。たぶんこの先ずっと私はあなたのことを好きであることに変わりはありません。見守ってくださいと嬉しです。

(11月3日 高知 Y・K 21歳 女性)

 龍馬さん。1カ月ぶりです！奈良から参りましたが、1カ月単位で龍馬さんに会いに来ました！1カ月会いたくて会いたくてガマンできませんでした！本日に龍馬さんが好きです。高知に龍馬さんに会いに来る時はいつも髪の毛を可愛くしたり、可愛い服を選んだり、普段ト気分です！龍馬さんの前では女になります！クラスのみんなが恋バナをする中、私は龍馬さんへの愛を語っています。本日に龍馬さん大好きです。

(11月10日 奈良 M・Y 16歳 女性)

 私の初めての一人旅行の場所を高知県にさせていただきました。瀬戸内海のこと、出来、非常に感激いたしました。岡田以蔵さんのことも知ることが出来たことに、歴史について深く触れより一層坂本様のことについても知ることが出来て感謝申し上げます。水平線が広がる

海というの、こんなにきれいだっただけです。また来ます。

(11月10日 広島 K・N 18歳 女性)

 此処に来ると遥かなる人の声が……。人よりも一尺高くから物事を見れば道は常に幾通りもある！有難う御座います！またすぐに戻って来ます！

(11月11日 岡山 R・F 60歳 男性)

 昨日はお誕生日おめでとうございます。どうしても11月15日の高知に来たかったです。そしてこの記念館のリニューアルも楽しみでした。ここは私に龍馬さんの手紙の楽しさを教えてくれた場所。現代語訳つきで全文の展示、それですっかりはまってしまいました。先日は福井に行ってきました。もちろん龍馬さんの手紙の展示（花押の手紙、新発見！）を見るために。この先も楽しみが続きます様に。また高知に来られますように。ありがとございました。

(11月16日 愛知 K・M 56歳 女性)

 久しぶりに来ました。子ども達は4月から社会人になり、週末は主人と過ごすことが多くなりました。今日は2人で来ました。子ども達から離れ、2人の時間がとても新鮮に思えました。どうしても今日は龍馬さんに会いに来なければと……。たくさん紙をもらって帰ります。悩むことも多くなってきましたが、来たらこども、もう悩むこともやめよう、気楽に生きたいいんじやないかと言われたように吹っ切れましました。これからの人生悩んだら龍馬さんに会いに来ます。

(11月18日 愛媛 M・U 46歳 女性)

 高知へ移住をし早6カ月。高知の生活にもすっかり慣れました。先日11月15日には京都のお墓へ行きました。今年もたくさんの方が来ていましたね。大政奉還から151年の月日が流れても尚、愛されている龍馬さん。龍馬さんの生き様や人柄はたくさんの人々に影響を与えていると思います。小学生の頃から今も変わらず龍馬さんが大好きです。移住するくらいに（笑）これからもずっと龍馬さんへの気持ちは変わらないうですよ！

(11月18日 高知 M・A 29歳 女性)

をどのように打開するのか、これも人の性格が出るものだと思う。筆者の場合、まずは立論の切り口となるべき史料の存在が不可欠である。むしろ、ある史料との出会いが「やってみたいこと」の出発点になることも多い。そのため、いかにして存在の知られていない史料を探し出すかが重要となる。逆にこの出発点がなければ、どれだけ発想が斬新であっても、そのテーマはお蔵入りとなってしまう。予測（期待）通りであったり全くの偶然であったりと状況は区々だが、このような史料と出会った時の喜びは格別である。史料調査の一番の醍醐味である。

## 点と点をつなぐ

過去という「時間の経過」を相手にしていることもあるだろうが、歴史学的に物事を証明するためには、事例をある程度積み重ねなければ説得力が伴わないことが多い。よって、証明のために欠かすことのできない史料を、二点三点と増やしていかねばならない。これら数点の最重要史料が、そのまま研究テーマの幹となる。さらに、幹それぞれの関連性を考えることで、徐々に全体の構成が決まってくる。同時に、その枝葉となる史料も探し出し、すべてを組み合わせる。この点と点をつなぐ作業が、個人的にもっとも楽しい時間である。

## 「形になりそう」を実感する時

これだなんとか形になるだろう、と思える瞬間がある。繰り返しになるが、これは、ある史料との出会いによってもたらされることがほとんどである。ここまで来て、期限がある場合はようやく一安心である。その後、「まとめる」という苦しい時間が待っているのだが。

結局、あまり新鮮味のない、漠然とした話になってしまった。普段発表や執筆の機会がある方は、ご自身の方法論と比較していただき、そうでない方は、お手元に届く「成果」の裏に、このような苦楽があることを知っていただければ幸いです。

## ■「記念館の冬 深い海」

10月2日から始まった「龍馬・りょうま・Ryoma」展では、各ジャンル20名の作家の方達の、個性に富んだ新作品が空間を彩りました。龍馬自身を描いたものには少年・青年・熟年・その後の龍馬と、人生を語るように作品が並びました。また、龍馬に因んだ作品には龍馬の足跡を描いた作品など、無限のイメージの可能性を、改めて楽しむことが出来た展覧会となりました。

さてこの季節、海の見える・ぎやうらいから見える太平洋は、紺青色と縹色を交えたような深い海がそこにあります。また空気が澄んだ冬の時期は、染まりゆく夕景が息を呑むほど美しく迫ってきます。

昨年12月23日からの「記念館の冬 深い海」では、日本画「伏見寺田屋」を展示しています。この作品は鳥取県の日本画家・前田直衛氏の作品で、昭和58年（1983年）第68回院展に入選した作品です。

当記念館にご寄贈いただき、リニューアル前の本館に展示していましたが、修復を終え保管しておりました。そして今回、リニューアル後の本館海の見える・ぎやうらいで、再び皆様にご覧いただくことになりました。



前田直衛「伏見寺田屋」

より鮮やかに甦った作品は、150号の大作であり、京都伏見区にある冬の「寺田屋」が丁寧にきっちりと描かれています。格子や駒寄などの細かい描写に加え、入口周りの赭色のような赤は、屋根と道端に柔らかく積もっている真っ白い雪を際立たせています。そして障子を照らす部屋の明かりからは、人の気配やぬくもりさえ感じられます。静謐さの中にほんのり温かさを感じる町家の風情を、前田氏の作品を通してご堪能下さい。

また、龍馬を中心に総勢50人の幕末の志士を描いた日本画「龍馬・志士の群像」も展示します。この作品は、徳島県の仏画家・江本象岳氏からご寄贈いただいたもので、大きさ縦715mm×横1310mm、以前から人気のある作品です。

懐に万国公法を携えた龍馬が中央に立ち、向かって右側に龍馬の師・勝海舟が、左側に絵筆を握った河田小龍が位置しています。すぐ背後には中岡慎太郎が控えており、その周りにはジョン万次郎、西郷隆盛、桂小五郎、高杉晋作、横井小楠、松平春嶽、徳川慶喜、乙女姉さんそしてお龍など、龍馬と共に幕末を生き抜いた錚々たる人物が、江本氏の遊び心も加わり表情豊かに描かれています。

絵の前に立つと、50人の思惑が飛び交いそれぞれの声があたかも聞こえてきそうな作品です。

冬から春を迎えるまでの時の流れを、自然と造形が味わえる海の見える・ぎやうらいでゆったりと過ごされてみてはいかがでしょうか。



中村 昌代

江本象岳「龍馬・志士の群像」

### 入館状況

2018年12月20日現在  
(1991年11月15日開館以来 26年310日)  
◆総入館者数 4,100,824人  
◆グランドオープンまで 3,936,760人  
(2017年4月1日～2018年4月20日休館)  
■グランドオープン(2018年4月21日)以来 164,064人

### 編集後記

グランドオープン後はじめての新年を迎えました。本号の編集・校正の期間は暖冬を実感する日が続きましたが、館内も冬らしからぬ暖気、いや熱気が溢れています。ご来館いただく多くのお客様のおかげです。グランドオープン以来、来館者は早くも15万人を突破しました。一方、新年号恒例の職員集合写真を例年のものと比べると、職員の数も大きく増加したことを実感します。幕末維新博も残すところわずかとなりました。職員一同、変わらぬ勢いで亥年を突き進みます。(た)

館だより「飛騰」第108号(年4回発行)表紙題字:書家 沢田 明子氏  
〒781-0262 高知市浦戸城山830  
発行日 2019(平成31)年1月1日 TEL (088)841-0001 FAX (088)841-0015  
発行 公益財団法人高知県文化財団 http://www.ryoma-kinenkan.jp  
高知県立坂本龍馬記念館 「飛騰」に対するご意見ご感想などお寄せください

開館時間 9:00～17:00 年中無休  
入館料 一般490円(企画展開催時700円)  
高校生以下無料  
高知県・高知市長寿手帳所持者・療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)は無料



「飛騰」は郵送料のみのご負担でお届けいたします。購読希望の方は120円切手をご希望回数(4回分まで)お送りください。  
〒781-0262 高知市浦戸城山830 高知県立坂本龍馬記念館「飛騰」購読係 まで



高山 嘉明

## 京都における 土佐藩の政治活動

私のテーマ

幕末期の有力藩のひとつである土佐藩の政治活動を明らかにすることが、筆者の最大の課題である。なかでも最大の関心事は、尊王という言葉で表される概念の実態を解明することである。

### 尊王という言葉の多様性

幕末期、特に文久年間の政治は、尊王という言葉なしには論じられないといっても過言ではないだろう。それと攘夷とが結びついて成立した「尊王攘夷」は、幕末を代表する政治概念として知られるし、その政治的実践というべき尊王攘夷運動は、まさに文久年間に最盛期を迎え、これを主導した勢力が当時の政局をリードした。尊王という言葉が文字通りに解釈すれば、天皇（朝廷）に対して忠義を尽くすといった意味合いになるが、現実的には、これ以外にも様々な解釈が必要となる。直接朝廷との関係を示すことはもちろん、朝幕関係を基本にすれば、尊王は朝廷を介して結果的に幕府との関係を示すものでもある。また、尊王の実践が重要課題となり各勢力がその度合いを競ったことで、藩の立場からは、尊王が他藩との関係を示すことにもなった。

### 藩邸史料から

さて、坂本龍馬記念館が所蔵する「土佐藩京都藩邸史料」という史料群がある。この藩邸史料は、土佐藩の京都における活動実態はもちろん、京都情勢全体を明らかにするための格好の素材であることから、積極的な活用が望まれる。ここからは、上に示した大きなテーマの具体例として、藩邸史料にもとづいて若干の考察を加えたい。

当然のことながら、この史料の舞台は京都である。京都で土佐藩に課された大きな任務のひとつとして、京都市中や御所周辺の警衛があったが、特に御所警衛は尊王の実践の場としても重要な意味を持った。この任務を中心に、土佐藩の立場や意識を探りたい。

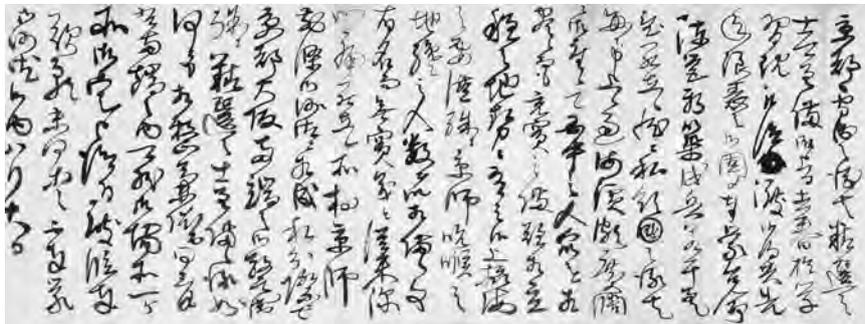
藩邸史料のなかに「宮様」（中川宮朝彦親王と推定）に関する記述がある。この「宮様」より、身辺の護衛のため土佐藩の部隊から七・八人を借り受けたことへの依頼があった際、その是非を問うべく現場の藩士から意見書が出された（目録番号462）。京都の警衛は自分たちが「苦勤」するところであるが、それでも「天朝之御用筋」ならば仕方ない。ところが、今回の依頼はあくまで「御私情之御筋合」（宮の私的な護衛）であ

あって、「天朝之御用筋」にはあたらないとする。「宮様」は言うまでもなく天皇の血族である。よって、その護衛を任せられることは、尊王の実践という観点からも、藩にとって名誉なことと考えられ

そうなるのである。しかし、この意見はそれを全面的に否定する。御所周辺の警衛が尊王の意味を持ったとはいつても、その対象がかなり限定的に理解されていたことは興味深い。

次に、元治元年（一八六四）年三月下旬、藩主山内豊範から幕府へ提出された上書に注目したい（目録番号101）。この時、土佐藩は、警衛を担う場所が京都になるか大坂になるかの岐路に立っていた。この上書によれば、まず土佐藩は、「京都御守衛」は朝廷から、「浪表之御固メ」（大坂警衛）は幕府から命

念することを望んだ土佐藩は、京都が大坂かの選択について、「何卒叡慮遵奉、御勅答之御趣意厚奉引受度念願」を表明する。「叡慮」も「勅答」も、天皇から示された意思を表す言葉である。これを「遵奉」したい、つまり天皇から与えられた京都警衛の任務を全うすることを希望したのである。そして、これを幕府に対して願っている点も、尊王の概念の複雑さをよく表している。



山内豊範上書写（目録番号101）の一節

尊王という言葉は実に複雑で、容易に理解しがたいところがある反面、その奥深さから、幕末史の研究において様々な可能性を持つているように思う。幕末の土佐藩政史を全国的規模でとらえることが必要と

考える筆者にとって、京都という政治の中心地での土佐藩の活動を明らかにすること、なかでも尊王という概念に注目することは、その一つの有効な方法であると考えている。

# 第2回 龍馬のひろば

「龍馬のひろば」へ ようこそ！

「第2回 龍馬のひろば」へご参加いただき、ありがとうございます。

この企画は坂本龍馬記念館・現代龍馬学会に集う仲間が、気軽に意見交換し、会員としての一体感を今まで以上に感じてもらうためにはどうすればいいか等々を考える中で生まれました。

現代龍馬学会の入会案内には次の文が見られます。…「現代龍馬学会」はさまざまな分野のプロフェッショナルたちが新しい視点で「龍馬を語る」学会です。坂本龍馬の思想と行動に学び、その精神を現代に活かすために有志が集まり、発足いたしました。…

現代龍馬学会は、来年4月で発足10周年を迎えます。様々な思いを抱く会員一人ひとりがこの「龍馬のひろば」を通じて自由に語り合えるようになった時、新しい歩みが始まるような気がします。お手元にハガキが残されている会員さんは、ぜひ「私のお薦め本」について玉稿をお寄せくださるようお願いいたします。

現代龍馬学会 会長 宮 英司

龍馬に関する図書で、  
あなたの愛読書は  
何でしょうか？



## 「海援隊始末記」

高知市 広谷喜十郎

平尾道雄  
中央公論社

私はこの原本を昭和29年に大学一年生の時に読んで以来、手元においている本です。これは、いま中公文庫として全国の龍馬ファンに愛読されており、平尾先生の「龍馬のすべて（高知新聞社刊）」と「明治維新と坂本龍馬（新人物往来社刊）」の3冊があれば、入門書として十分だと思います。あとは、この本から得た問題をさぐり、それぞれの分野へ開拓しているようです。私は「坂本龍馬と現代」というテーマを得て50編余り書いています。

## 「坂本龍馬からの手紙」

高知市 守谷孝男

宮川禎一  
教育評論社

ノンフィクションだから。そして、現代語訳だから。



に詳しく書かれている。龍馬の動きを中心として、新選組をはじめ、多くの勤王の志士の動き、幕府側の動き、新選組の動き、新政府側の動き等に、西暦・和暦・月日が分かり安く書かれている。また、幕末期に活躍した多くの人物の解説もあり、大変資料として利用できる。日付までを明記した詳細年表で幕末の「あの日」がよみかえる。

## 「その時、龍馬は、」

福岡県大牟田市 幸田義勝

## 新選組は「」

赤尾博章 青木繁男 監修  
株式会社ユニプラン

幕末の出来事を、年表ごと

## 「龍馬のすべて」

高知市 岡崎洋一郎

平尾道雄  
高知新聞社

〈史実を追った龍馬のバイブル〉  
なんとと言っても龍馬関係の

出版書籍の中で、平尾先生の「龍馬のすべて」だと思ふ。数多い龍馬本の中でその原点となる龍馬の史実を追い、司馬龍馬をはじめ幾多の龍馬本のバイブルです。マリアスジャンセン氏によって海外に龍馬を紹介することにもつながりました。昭和60年の初版以来再版を重ねていることでもその貴重さが証明されています。龍馬を語り龍馬小説等のフィクションと対比する史実の私自身のバイブルでもあります。

### 「誰が坂本龍馬を

高知市 大崎隆徳  
つくったか」

河合 敦  
角川SSコミュニケーションズ

坂本龍馬の活躍は必ずしも本人の力だけでなく、運命に導かれたのだと感ずる一冊です。

最初から龍馬がヒーローであつたわけではない。龍馬を

して英雄に仕立て上げた人々が存在するのである。は印象的な言葉です。

龍馬に脱藩を決意させたと言われる人物、久坂玄瑞。西郷隆盛が龍馬を側面からサポートしたのでは。等の記述が興味深い。

彼を取り巻く多くの人により、彼は「英雄・龍馬」となつたと思える本です。

### 「司馬遼太郎

高知市 根木勢介  
全講演1〜5巻」

朝日文庫 朝日新聞出版

私には龍馬に関する愛読書は特にない。「龍馬の置かれた時代環境を視野に研究してゆきたい」と思っているが、参考になるのが司馬遼太郎さんの著作集。数ある著作集の中でも特に示唆に富み、参考になるのが、司馬さんの「講演集」である。司馬さんは、全

国各地で講演。各地の歴史や人物を折りこみながらの講演は、龍馬研究の上でも、時代環境を考える上でも、ヒントがいっぱい詰まっている。

### 「龍馬、蝦夷地を

札幌市 村田 拓一  
開きたく」

合田一道  
寿郎社

「龍馬、蝦夷地を開きたく」は、龍馬が北海道開拓のため4回も蝦夷地行きを進めながら、実現できないまま凶刀に倒れ、その精神を受け継いだ龍馬の甥達が夢を実現する内容の本です。

平成16年6月に刊行されましたが、北海道命名150年の年に、もう一度、龍馬が幕末から明治に移行する激動中、日本のための北海道開拓への思いを知ることができる貴重な本です。

ほつかいどう龍馬会 世話人  
副代表 村田 拓一

### 「小中学生のための

高知市 宮英司  
坂本龍馬物語」

高知市教育委員会

歴史を学習していない小学5年生でも理解できる龍馬物語」を目指した本である。当時の高知市長さんが「龍馬都市」宣言をされたので、各部署がそれぞれに龍馬に関する施策を立ち上げる中で誕生した。

前半が絵本、後半が資料編。子どもも大人も楽しめる出来栄となった。今、途絶えているのが残念でならない。お土産に最適の図書の一日も早い復活を念じて、好きな理由に代えさせていただきます。



### 「グラバーの暗号

千葉県柏市 出口龍彦  
―龍馬暗殺の真相」

幻冬舎

まことに僭越ながら拙著『グラバーの暗号』を紹介させていただきます。大航海時代以来、欧米列強は植民地拡張に血道をあげた。英国はインド、中国について金銀の産地日本を標的にした。内乱の動きを察した英国は武器弾薬を売り込む。グラバーはその手先だった。内乱収拾に動いたのが龍馬だ。「邪魔者は消せ」英国に頭のあがらない西郷が龍馬暗殺を指示した。武器弾薬代金の焦げ付きでグラバーは破産。真犯人を三菱のビールに忍ばせた。



# 絵葉書の時代

宮川 禎一

霧島山登山図を含む龍馬の慶応二年十二月四日の家族宛ての書状は幕末の絵入り手紙の代表例である。しかし私たちが良く知る絵葉書がこの日本で作られ始めたのは明治三十三年(一九〇〇年)以降のことだ。坂本・中岡の四十年祭(一九〇六年)で記念品として製作配布された絵葉書セット(京都便利堂製)が良い例である。

最近手にして紹介しなくなったのは『廣瀬武夫からの絵はがき』(笹本玲央奈編二〇一八年)という図録だ。日露戦争の旅順港閉塞作戦で戦死した海軍少佐広瀬武夫が出した絵葉書のうち七十通を集成解説したものだ。個人的に広瀬が好きなのもあるが、それを越えて素晴らしい図録だと思う。広瀬がロシアから日本に居る父親や兄や義姉や姪っ子など家族に宛てた絵葉書が中心だ(彼はロシア駐在武官だった)。異国の風景に添えた愛情溢れる短い文章に彼の人が惚ばれる。葉書表裏の写真・翻刻・現代語訳・解説文のバランスも好ましい。ロシアでの投函日と日本の消印を見れば、明治三十年代に四十〜五十日ほどで故郷である大分県竹田町の父親の許にちゃんと届いていることにも驚かされる。

広瀬に妻子はないが、東京に住

む姪の馨子に向けて書いた絵葉書の一節はこうだ。犬が手紙を読む絵に添えて「コンダハネコノカワリニイヌノエヲラクリマス、私ハコンナアンバイニアナタヨリノ御手紙ヲヨミマシタ」(明治三十四年・一九〇一年)というものだ。小さな姪っ子を可愛がる広瀬の様子が、春猪に「西洋のおしろいを送るよ」と書いた龍馬に重なって面白い。

西洋で絵葉書が発明されたのは一八六九年のオーストリア・ハンガリー帝国のことで、一八七〇年代以降、印刷技術の優れたドイツを中心に普及したという。広瀬武夫の絵葉書を見ながら、十九世紀末〜二十世紀初頭の世界が郵便という通信手段で確実につながっていったという事実には不思議な感覚を覚えるのである。



広瀬神社の前に立つ  
広瀬武夫の銅像(大分県竹田市)

## “話してみるかよ”

### 「幕末史の主演」

渋谷 雅之

誰が主演かを見極めずに幕末史を考えると、単純な話が大変複雑になり、そのうちに何が何だかわからなくなる。

幕末の政局は、藩主に代わって主体的に行動できる重臣の存在が藩の命運を左右するといった非常事態の中にあった。小松带刀(薩摩)、木戸孝允(長州)、中根雪江(越前)、辻将曹(芸州)などといった有力藩の重臣は、必ずしも藩主の命令の下に行動していたわけではない。彼らがどのような決断を迫られ行動したのかを現代人の我々は豊かな想像をこらしながら考察しなければならない。

身分の低い平士が政治に参加することは許されず、薩摩の大久保利通が主演に上り詰めたのは、囲碁という姑息な手段で島津久光に取り入ったことがきっかけだった話は有名である。まして、坂本龍馬や中岡慎太郎のような浪人が政治を動かすことなどあり得ないことだった。

草莽の志士たちが藩主級の大物や京都の公卿たちと平気で会談するといった情景は、当時奔流のように日本に流入していた西洋デモクラシーに向けた胎動のはじまりだった。しかしその胎動が現実の国体となり、日本に実現するまでには80年後の太平洋戦争終結まで待たなければならず、それからさらに70年後の今日、民主主義が日本に定着したとまでは言いにくい現状なのである。

幕末の時期、志士たちの言動や存在は政治の主演たちにとって各種の情報源だったり、使い捨ての駒だったりした。現代人が彼ら志士たちから学ぶべきものは、それでも時代を切り拓こうとした情熱や勇気である。龍馬には、それに加え土佐の空のようにひろびろとした自由があった。

## コラム・龍馬のこと

### 「井上俊三について 驚きの出会いが・・・」

宮 英司

桂浜の銅像の元といわれる写真は、慶応3(1867)年1月、長崎の上野彦馬スタジオで撮影されたものである。長い間、撮影者は上野彦馬と思われていたが、近年は上野彦馬の弟子であった井上俊三(土佐藩)が撮影したとする説が有力となっている。

井上俊三(1834~1907)は、高知城下で天保5(1834)年9月16日に出生。長崎で蘭学を学び、要法寺町で町医者となる。その後、慶応年間に藩命を受け、化学修業のため再び長崎に出向いた。この時、日本の写真家の始祖といわれる上野彦馬に弟子入りして写真術を習得した。写真術の習得は長崎にいた後藤象二郎の内命であったようだ。のちに大阪で写真館を開設し、大いに繁盛したらしい。やがて、高知に帰って農人町で写真業と西洋雑貨商の二つを営んだ。両方とも、高知の元祖であったという。

ところで、話は冒頭の出会いに戻る。ある宴席のこと。ある方が先祖の話をしていて。私が「井上俊三ですね。」と言うと、その方は「うちの婆さん以外の人からこの名前が出るとは…。鳥肌が立った。」と感激してくださった。そして、その場でお婆さんに電話をかけてくださり「いつでもいらっしやい。」という約束までしてくださった。

井上俊三の子孫宅に「龍馬の写真は井上俊三が撮影した。」という言い伝えが残っているという。また、他の記録でもそのことが証明されつつある。今度、お婆さん宅を訪問した時にどんな話が飛び出すか。ワクワクしている。